

平成21年度「循環・共生・参加まちづくり表彰」表彰団体概要

<p>(No.1) 北海道 財団法人下川町ふるさと開発振興公社 人口 3,765 人(平成 21 年 10 月現在) 面積 644.2 k m²</p>
<p>クラスター推進部では、森林総合クラスターの創造に向け、森林が持つ CO2 吸収量を海外などの排出権市場に対し、直接売買を行うことをせず、企業の社会的責任 (CSR) を活用した「森林と企業とのパートナーシップ」として自治体レベルでの CO2 吸収量取引を全国に先駆け提案を行い下川町と企業の両者にメリットをもたらした。</p>
<p>(No.2) 宮城県 登米市 人口 86,736 人(平成 21 年 11 月現在) 面積 536 k m²</p>
<p>登米市では、平成 19 年 3 月に「環境と産業が共生した持続可能な社会の形成」などを基本理念とした環境基本条例を制定した。また、翌年 3 月には、この基本理念に沿った具体的な施策を展開するため環境基本計画を定め、56 の個別目標を掲げている。 今年 3 月には、環境基本計画の目標を達成するため、これまで個々に環境活動を行ってきた市民、事業者、各種団体等のネットワーク化を図る「登米市環境市民会議」を設立し、「地球温暖化対策」「自然環境保全」「循環型社会形成」「生活環境保全」の各分野において、行政として連携して環境保全に関する取り組みを行っている。</p>
<p>(No.3) 福島県 阿武隈川サミット実行委員会 (事務局福島市) 人口 294,347 人(平成 21 年 11 月現在) 面積 767.74 k m² 流域 22 市町村 流域面積 54,000 k m²</p>
<p>近年の都市化等により、阿武隈川と人々との関わりに大きな変化が生じ、治水、利水、そして水質を含む河川環境の保全を三つの柱とし、流域自治体が一体となってその対策に取り組んでいる。福島県・宮城県内の阿武隈川沿いの 29 自治体 (合併により現在 22 自治体) が一堂に会し、それぞれの流域での役割を担いながら、次世代に共通の遺産として良好な河川環境を伝えていくことを基本理念に福島市の提唱で平成 6 年に「阿武隈川サミット」が開催された。現在では、流域自治体により構成されている阿武隈川サミット実行委員会が同サミットを開催し、今年で 13 回目を数えた。河川のクリーンアップ作戦やリバースクール、阿武隈川を結ぶ流域発表会・交流会など多彩なイベント活動を通じ基本理念の具現化を図っている。</p>
<p>(No.4) 栃木県 茂木町 人口 15,225 人(平成 21 年 12 月現在) 面積 172.7 k m²</p>
<p>家庭から排出されるごみの 3 割を占めるといわれる生ごみの資源化を図るため、町直営の堆肥化施設「美土里館 (みどりかん)」を平成 14 年度に整備した。ゆず・そば・梅・棚田のオーナー制度などの農業体験や里山林を利用した森づくりによる地域間交流が行われているほか、近年では、町の中学校の建設にあたり、町で伐採、加工した木材をふんだんに使い、地域の方々から愛される校舎が完成した。</p>
<p>(No.5) 新潟県 佐渡市 人口 64,816 人(平成 21 年 12 月現在) 面積 855.10 k m²</p>
<p>佐渡市は、新市建設の基本理念に「豊かな自然、薫り高い文化、活気あふれる新しい島」を掲げ「人とトキが共に生きる島づくり」を環境施策の基本にし、豊かな自然の回復や、環境への負荷の少ない循環型社会を基調とした島の実現に取り組んでいる。トキ</p>

のすむ佐渡は人にも優しいことから「環境に優しい島づくり」の実現に向け、市民・事業者との島内一斉清掃など協働の取り組みを進め、トキを軸とした観光や産業振興を図っている。

(No.6) 長野県 小諸市 人口 43,910 人(平成 21 年 12 月現在) 面積 98.66 k m²

小諸市では、「心のゆとりを感じながら、自然とともに暮らせる環境」を将来像としてまとめた「小諸市環境基本計画」や、住民や地域の特性を活かした小諸らしいロハスを進める「小諸発『こもろはす』計画」。また、地球温暖化について、小諸から排出される温室効果ガスの削減を目的に策定された「共に取り組む CO₂削減計画こもろ」など、環境という大きなキーワードに対し様々な角度から切り口を設け、諸課題に取り組んでいる。

(No.7) 京都府 亀岡市 人口 93,947 人(平成 21 年 12 月現在) 面積 224.90 k m²

亀岡市は、平成 12 年に ISO14001 を率先取得して行政運営の基幹的システムとして EMS を導入し、「瑞々しく健康な大地と清々しい大気、人も自然もいいあんばい」を望ましい環境像に、「環境問題を地球規模で考え、地域で行動する」ことを基本理念に、恵まれた自然環境と歴史的文化遺産を活かした持続可能なまちづくりに取り組んでいる。地域的な特徴を活かして、天然記念物であるアユモドキの保護増殖や温室効果ガス削減に貢献するエコ農法の推進などに取り組み、成果を納めつつある。

(No.8) 鳥取県 北栄町 人口 16,267 人(平成 21 年 12 月 31 日現在) 面積 57.15 k m²

北栄町では、町づくりの 7 つの基本施策のひとつに“環境に配慮したやさしい町づくり”を掲げ、平成 18 年 12 月「北栄町環境基本条例」を制定、平成 19 年 3 月「北栄町環境基本計画」を策定、平成 20 年 2 月「北栄町地域新エネルギー・省エネルギービジョン」を策定し、「人と自然が共生し、あたたかい心のふれあうまち」をめざして、町・町民・事業者の協働により各種施策を展開している。

特徴的な取り組みとしては、「北条砂丘風力発電所」の建設がある。平成 17 年 11 月から本格稼働している本施設は、1 基あたりの定格出力が 1,500kW の風車を 9 基備え、自治体直営では国内最大規模の大型風力発電施設であり、新エネルギーの普及、地球温暖化対策の啓発のシンボルとなっている。この風力発電所の年間 23,900MWh の発電量は、一般家庭およそ 6,600 戸分に相当する。北栄町全体では 5,163 戸（平成 21 年 12 月 31 日現在）であるので、他町の 1,500 戸分もまかなっている計算になる。これにより、年間約 13,300 トンの二酸化炭素の削減が見込まれ、地球温暖化防止に貢献することが期待できる（発電電力は、すべて中国電力(株)に売電している。）。本年 7 月には、「第 14 回全国風サミット in ほくえい」が北栄町で開催され、風力発電の成果はもとより、平成 18 年度から取り組んできた町・町民・こどもエコクラブの環境活動の実践を紹介し、新エネルギーの導入促進と地球温暖化防止、資源の有効利用、自然との共生等について町内外に広く PR した。